

第5回地域資源戦略協議会資料

2014年3月14日

(株)前川製作所

篠崎 聡

【コメント】

1．先端技術を利用した生産システムの高度化・実証

【国際競争力確保のための先端技術展開事業

（攻めの農林水産業の実現のための革新的技術展開事業）】

・土地利用型作物と施設園芸で、出口戦略を検討すべきである。

また、海外輸出に向けた国際競争力を視野に入れる必要がある。

・畜産施設の閉鎖化は、閉鎖型植物工場の技術が展開できる。

また、インフルエンザなどの予防に貢献できることは、期待できる。

・施設における空調では、環境配慮的側面が必要である。温暖化防止のための規制も考慮すべき。

・生産から流通消費までのコールドチェーン（バリューチェーン）を念頭においた戦略が必要である。

2．【異分野融合研究について】

・異分野融合による研究開発は、非常に期待が持てる。

出口のビジネスを想定したコンソーシアム体制とマイルストーンを重視したPDCAが必要である。

・知的財産と規制緩和、国際的な基準化の促進は、組織的に取り組む必要がある。

3 . 【IT・ロボット技術等の活用による農業生産システムの高度化プロジェクト】

- ・ITの活用、ビッグデータの解析、マイニング技術など、農業分野での利用可能性が高い。ツールとしての活用を目指すべき。
- ・RTについては、農家（作業者）の視点で、開発を進める必要がある。
- ・現場で求められるニーズに対応したロボットが重要である。

4 . ファインバブル

- ・ナノバブル等のファインバブルは、日本が先導している技術であり、この農業分野への適応は、期待される。
- ・出口を想定した、研究開発テーマを設定する必要がある。また、コンソーシアムとして、研究機関と民間企業の参画を重視すべき。

まとめとして、共通的に必要な項目は、
出口を見据えた研究開発と体制整備、
現場での実践を基盤とする。
国際的な知的財産の視点を重視する。